
アウト

やさぐれ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アウト

【Nコード】

N8305C

【作者名】

やさぐれ

【あらすじ】

僕の平和な日常。今日もまたその繰り返しのはずが……。どうか夢であってくれ。

第一話：contact

生暖かい風が、僕の耳を掠めた。電車の音がやけに小さく聞こえた。僕は、ゆっくり目を閉じた。

現在の時刻7時40分。今日もまた、電車に乗り、会社へ向かう。ガタン、ゴトン、電車の揺れる音に合わせて、耳障りな女子高生の声、メールの打つ音、ウォークマンから漏れた憎音。何も変わらない朝。

8時30分、会社到着。同僚たちに挨拶。席につき仕事開始。そう、僕は、この時までこれから起きる悪夢なんて全く想像してなかった。いや、想像できるはずなかったんだ。アイツに出会うまでは。

夜、9時30分。残業を終え、帰宅。近くのコンビニで、ビールと弁当を買い家に向かう。

アパートの階段を登り終えると、僕の部屋の前に知らない男が立っていた。

男が振り返り、僕を見た。僕は、目を奪われた。そいつは、スラッと高い身長に、長い手足。顔は、日本人離れしていて、男の僕から見てもかっこよかった。独特の雰囲気を持った男は、ゆっくりと僕に近づいてきた。

男が僕の目の前で足を止めた。

「なあ、俺のこと雇わないか。」

僕は一瞬何を言っているのか理解できなかった。そんな僕に男は笑って、もう一度、

「お前、狙われてるんだよ。」

「そんな顔すんなよ。」

そこで僕はやっと思考を動かした。こいつは、おかしい。関わらないのが1番だ。僕は足早に部屋に進んだ。僕がドアを開け、部屋に入ろうとした時、

「明日の朝8時、ゲームスタートだ。頑張れよ。」

彼は、心底楽しそうに笑った。

第一話：contact（後書き）

遂に連載書いてしまいました。文才の無い私ですが、どうか最後までお付き合いください。

第二話：start（前書き）

少し、グロテスクな表現があります。苦手な方は、ご遠慮ください。

第二話：start

ピピピッ、目覚ましの音が聞こえた。目覚ましに手を伸ばし、時刻を確認する。7時30分。完璧に寝坊だ。

急いで支度をして家を出る。こんな事になったのも、昨日の変な男のせいだ。あの後、どうも気味悪くなかなか寝つけなかった。最近、変な奴が多くなっているが、まさか自分の所に来るとは。そんなことを考えている間に駅に到着していた。

何か騒がしい。僕は気にせず進もうとした。

『只今、7時40分発の　行きて脱線事故が起きました。申し訳ありませんが、遅れが出ております。』突然のアナウンスが聞こえてきた。僕は身震いした。今、事故を起きた電車は、僕がいつも朝乗ってる電車だ。アイツの言葉が思い出された。僕はすぐに考えるのをやめた。これは単なる偶然だ。

ブルルッ、ブルルッ。部長からだ。ヤバイ、こんな事してる暇はない。これ以上遅れたら部長に怒られる。

僕はタクシーを拾おうと駅の外に出た。

誰かが、服の端を引っ張った。女の子だ。

「ねえ、お兄ちゃんの名前、シヨウでしょ。」女の子の突然の質問に僕はビククリした。また、嫌がらせか。僕は気にせず進もうとした。が、進めない。女の子が僕の服を凄い力で引っ張っている。

「名前、シヨウでしょ。みつけた。」僕は驚愕した。女の子が鎌を振り上げて僕に襲いかかってくる。狂喜な笑顔をみせて。僕はただ無抵抗にそれを見ていた。パンツ。突然、銃声が響き、血が吹き飛んだ。女の子が倒れている。真っ赤に染まって。

『だから言っただろ。俺を雇えって。』

アイツだ。あの男の声が聞こえた。僕はゆっくり声のする方に目を向けた。男は、銃を持って立っていた。相変わらず楽しそうな笑顔をして。

第二話：start（後書き）

すでに文章がグダグダです。すいません。感想等、ありましたらどうか評価にコメントください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8305c/>

アウト

2011年1月16日09時59分発行